

京都府立東稜高等学校

キャリアコースライフマネジメントクラス

実践マネジメント(京都東稜のぼうさい普及活動)

- ①地域に向けた様々な防災教育の普及活動を生徒自らが企画して実践
(小・中学校向けのワークショップ企画と歴史防災の学習発表)
- ②今こそ家族の絆！家族で決めよう防災役割分担。
(中止になった小・中学校の出前授業に代わる防災チェックシートを地域に配布
また、家族会議を舞台にした劇の動画を提供)
- ③計画は着々と進めているものの実践する機会が失われている。
そのため、学校全体の防災意識を高める活動に努めている
- ④学習アプリを使った防災ジャーナルを2年生が発行し、保護者、生徒に配信
避難訓練の計画、歴史防災普及活動、気象計を活用した天気の統計調査を3年生
が実践

積極的に意見を出し合い、協働する力が
どんどんついてきています。



岐阜県立大垣特別支援学校

●当初の活動目標（活動計画）

テーマ：守ろう自分の命、家族の命

1. 自分の命を守るために

- ・生活単元学習や学部集会等を含めた、年間を通して取り組む防災学習の実施
- ・交流校と共に取り組む（防災アプリ制作）防災学習の実施

2. 家族の命を守るために

- ・授業参観等、家族と一緒に考え、取り組む防災学習の実施

●新型コロナ禍における活動状況

<学校>

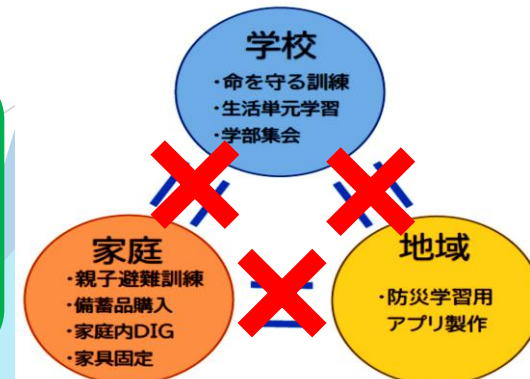
- ・休校による授業時数の減少に伴う授業計画の見直し

<家庭>

- ・感染症予防による活動計画の見直し
→授業参観中止等

<地域>

- ・交流校との交流内容の見直し
→アプリ制作中止



●新しい活動目標と活動状況

テーマ：守ろう自分の命、家族の命 ～高める防災力の輪～

学校、家庭、地域**それぞれの防災力を高め、防災力の輪を強化**し、災害発生時に命を守り抜くことができるようにする取組

1. 学校（職員、児童生徒）の防災力を高める取組

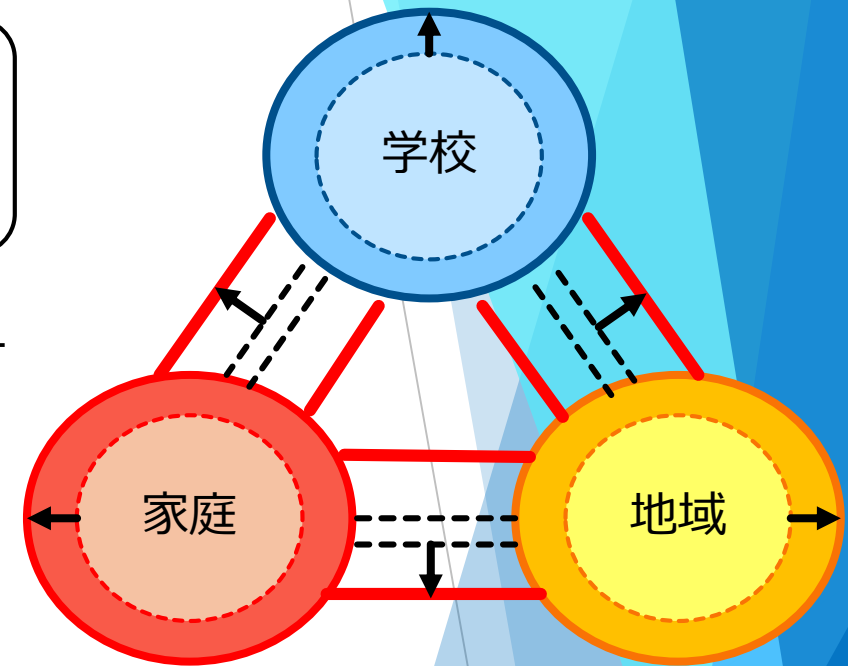
- ①職員防災力テスト（毎月）
- ②防災掲示板

2. 家庭の防災力を高める取組

- ①家庭の減災力テスト（7月・12月）
 - ・課題に応じた情報発信
- ②災害伝言ダイヤルクイズ
 - ・学校が録音した音声を聞き、問題に答える取組

3. 地域との連携を深める取組

- ①合同研修会
 - ・当校を避難所と想定したHUG



北海道標津高等学校

① 当初の活動目標

- ▶ 標津町と協力して合同避難訓練の実施
- ▶ 地域住民とオリジナルHUGの実施
- ▶ 小中学生に防災活動の普及

② 新型コロナ禍における活動状況

- ▶ 臨時休業後、「授業時数確保」という至上命令の下、活動に時間を割けずにいる。
- ▶ その中でも、昨年より継続していた「オリジナルHUG」の制作の目途が立った。

北海道標津高等学校

③ 当初の目標と現時点での活動状況のギャップ

- ▶ 町民との交流ができない状態。
(コロナ次第)
- ▶ HUGにおける感染症対策を強化するきっかけとなった。

④ 今後の活動目標

- ▶ こども園への出前授業を行えるように調整
(防災に関する紙芝居、“オッケー！”BOUSAI！ダンス指導)
- ▶ 町民とオリジナル
HUG・リアルHUG
- ▶ 防災研修（岩手県釜石市）

とよまつ^{まな ぼう さい}学防災 ～地域・家庭・学校の防災の和～

愛知県立豊橋特別支援学校

当初の活動目標

- 児童、生徒、職員一人一人が自らの命を守り抜く力を養う。
- 地域と連携した持続可能な防災教育を実施する。



児童生徒の実態に合わせた
防災教育を地域と連携しな
がら行う計画でした。

学校マスコットキャラクター
「とよまつ」

新型コロナ禍における活動状況

校内

年間指導計画に学年又は学級で取り組む防災教育

寄宿舍での防災ミニキャンプの計画準備

備蓄食料の整備（試食・購入等）

校外

福祉避難所指定に向け市役所と協議

静岡大学との防災に関する遠隔授業の計画準備

日高特別支援学校防災体験プログラムへの参加



▲ダンボールベッドの土台



▲防災体験プログラムに参加

当初の活動目標と現時点での活動状況のギャップ



- ・ 予定していた地域の中学校、高等学校との交流が中止になった。
- ・ 防災アイデアレシピを使った調理実習が中止になった。
- ・ 臨時休業により「総合的な学習の時間」や「生活単元学習」の時間数が減った。
- ・ 全校が一斉に集合する形での避難訓練ができなくなった。
- ・ 集会活動が中止になった。

今後の活動目標

- 児童、生徒、職員一人一人が自らの命を守り抜く力を養う。
- 地域と連携した持続可能な防災教育を実施する。
- 感染症予防に配慮し、工夫をしながら防災教育に取り組む。

活動目標に変更
はありません。
できることを工
夫して行います。



NPO法人 i-care kids 京都

「医療的ケア児と家族のための 防災チャレンジ」

①当初の活動目標：

⇒人工呼吸器や胃ろう等の医療デバイスを用いて生活している子どもたちの命を災害時に守るために、保育園スタッフ、保護者、地域の関係者が連携し災害時に向けての体制づくりを行う。

②新型コロナにおける活動状況：

⇒保育園での月1回の避難訓練、防災に向けた取り組みは実行中。

⇒園児以外の医療的ケア児家族、関係者向けのシンポジウムは中止となっている。



③当初の目標と現時点でのギャップ：

⇒新型コロナの影響で、地域関係者との連携の取り難さ、保護者や園児以外の家族を巻き込んだ取り組みの実施に困難があるものの、保育園での防災の取り組みは実施することが出来ている。

④今後の活動目標：

⇒今年度は開園1年目であることから保育園での防災の取り組みを継続していく。

⇒専門家の意見も取り入れつつ防災を進めるために大学関係者との勉強会の場を持つ。

⇒保育園での取り組みを保護者にも伝え、家庭での防災の取り組みに繋げてもらう。



教員養成大学の学生を育てる防災教育年間プログラムの開発 一町内防災運動会をととした「地域発」の学び

愛知県刈谷市 井ヶ谷町内会体育部



活動報告会（2020.2）プラン発表の成果：テーマと計画のリニューアル
「地域の教員養成大学の学生と連携した町内防災運動会」（旧）

活動のねらい

- 防災運動会への参加をととした地域活動
- 学生の参画による地域住民の防災意識の向上

期待される成果

- 年間をととした防災教育プログラムの開発
- 指定避難所の運営につながる知見や体験の獲得



新型コロナ禍における活動状況

大学の担当部局との連携づくり / 新型コロナの状況を想定した活動計画作成



当初の目標と現時点での活動状況とのギャップ

令和2年度町内防災運動会の中止決定 / 学生・学外者の大学構内立入規制



今後の活動目標

来年度の第40回記念大会へ向けた活動 / コロナ禍での実施方法の検討

ガールスカウトのチカラで防災女子を増やそう！

ガールスカウト東京都第172団



1. 当初の活動目標

- ①女子高校生スカウトが地域小学生向けに「楽しい」避難所訓練の講師をする
 - ⇒多様性に配慮した女性の指導者を育成する
 - ⇒小学生が「楽しい」避難所訓練をすることで、被災時の不安を軽減し、被害の拡大を防ぐ
- ②「防災ポーチ」を公共性の高い地域のお祭りで販売する
 - ⇒女性ならではの視点で防災への関心を高め、減災に貢献する
 - ⇒収益を福祉団体に寄付することで防災と福祉で地域に貢献する

地域と国と世界に責任
を果たし、人に役立つ
ことを心がけます

2. 新型コロナ禍における活動状況

- ①家庭でスカウトの「防災ポーチ」見直し ⇒練馬区発行地域ニュースで発信される
- ②在宅避難時の食事と栄養の日記 ⇒練馬区発行地域ニュースで発信される
- ③オンライン研修「わいわいミーティング」スカウト参加
- ④災害時に備えて公衆電話の使い方集会実施
- ⑤男女参画センターを訪問し、防災と女性について考える集会実施
- ⑥荒川区の高齢者施設にスカウトの手作り防護服を寄付
- ⑦北区のスカウトと一緒に「防災ポーチを持とう！」ポスターの作製と掲示活動を開始
- ⑧第5次男女参画基本計画策定の防災章にガールスカウトとしてパブコメを発信

※活動は、団ブログ、ガールスカウト日本連盟SNSで発信した



ガールスカウトのチカラで防災女子を増やそう！ ガールスカウト東京都第172団

3. 当初の目標とのギャップ
地域活動、ガールスカウトの集合研修が全て中止。
学校スケジュール見通し立たず、スカウトの活動予定立たない。
⇒スカウトがこれまでの活動で築いてきた地域ネットワーク、
ガールスカウトのネットワークを大いに活用し、
インターネットや紙媒体で活動を発信する

4. 今後の活動目標

- ①「防災ポーチ」の世代別啓発ポスターを北区スカウトと作製、掲示
 - ②手作り防護服の寄付を練馬区でも展開する
 - ③地域のこども新聞で、防災活動を発信する
 - ④簡易版「防災ポーチ」を販売する※寄付は見送る
 - ⑤日本赤十字主催オンライン救急法講座受講する
 - ⑥ガールスカウトのリモートイベントで活動を発信する
- ※活動を団ブログ、ガールスカウト日本連盟SNSで発信する



《当初の活動目標》

防災講座開催、防災センター視察、避難所開設訓練の実施等、地域機関や地域の施設と連携した活動を行う。



《新型コロナ禍における活動状況》

前期は、学生の登校制限、集団活動の制限がある中、週1回の活動を原則とし、メンバーの学生が個別に情報収集、それをもとにリモート会議実施、少人数によるグループワーク、学内設備調査を行った。

《当初の目標と現時点での活動状況とのギャップ》
感染防止対策のため、学生の登校や参集および地域の施設等への立ち入りが著しく制限されていること、学生や保護者の感染への不安等も考慮し、当初の活動目標の多くは実施できていない。

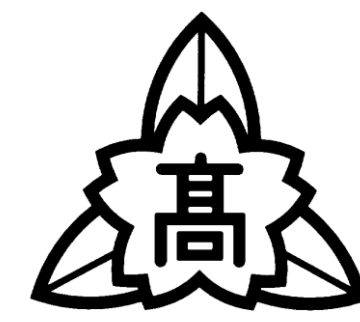
《今年度前半の活動》

- ・ 佐野市との契約内容確認、聞き取り
- ・ 避難所として活用できる学内設備調査、点検
- ・ HUG体験、変更部分の確認
- ・ 令和元年度台風19号

佐野市災害対策本部、避難所開設担当者 講演
佐野市災害ボランティアセンター担当者 講演

《今後の活動目標》

- ・ サノタン版HUG作成
- ・ サノタンFMBの製作



当初の計画

2020年度のチャレンジプランのテーマは「継続」と「改良」

2019年度のチャレンジプランで得た地域や学校とのつながりを大切にしながら、より効果的な活動の実践に取り組む

1 自らの学び

2019年度の課題

- 合同学習会の運営
 - ・ 日程調整について
 - ・ 学習の内容について
 - より多くの生徒が参加できるよう日程の調整が必要
 - より効果的な学習となるよう内容の精選が必要

2 学びの発信

2019年度の課題

- 防災キャンプへの参加
 - ・ 活動内容について
 - 防災クイズ、災害食の調理補助、避難所開設とその運営であったがより良い活動はないか
 - ・ 防災士資格取得学習会について
 - 実施され、参加したが、活動や効果は不十分

『防災キャンプへの参加』を柱に据えたカリキュラム開発

《 防災士資格取得に役立つような学習内容の検討 》

広域避難場所のマーク／バールの使用／トリアージ体験／液状化など、小中学生にとって一見難しそうな現象やモノを体験から学ぶ機会にする
防災についての学びが、楽しく、地域にとって役に立つものであることを実感できる場としたい

● 市内の7高校による学習会（複数回実施）

実施内容

- ・ 避難所運営についての学習会
- ・ 防災クイズの制作
- ・ 災害食の炊き出し（文化祭にてPTAと実施）
- ・ 防災士教本をもとに学習内容を精査
 - 防災士資格取得に貢献できる内容に

● 宇和島市防災キャンプ

実施内容

- ・ 防災クイズの実施
- ・ 災害食の調理
- ・ 自分達の学習や研究、活動の披露や報告
- ・ 防災士資格取得学習会への参加

● 世界津波の日高校生サミット、宇和島防災フェス、各種学会など

実施内容

- ・ 自分達の学習や研究、活動の披露や報告を通じた改善策の検討

コロナ禍により

学校間交流自粛，学校行事延期または中止，地域のイベント中止・・・

⇒⇒⇒ 人が集っての学習機会困難



1 自らの学び

2019年度の課題

合同学習会の運営

- ・ 日程調整について
- ・ 学習の内容について

より多くの生徒が参加できるよう日程の調整が必要
より効果的な学習となるよう内容の精選が必要

2 学びの発信

2019年度の課題

防災キャンプへの参加

- ・ 活動内容について
防災クイズ、災害食の調理補助、避難所開設とその運営であったがより良い活動はないか
- ・ 防災士資格取得学習会について
実施され、参加したが、活動や効果は不十分

『防災キャンプへの参加』を柱に据えたカリキュラム開発

《 防災士資格取得に役立つような学習内容の検討 》

広域避難場所のマーク／バールの使用／トリアージ体験／液状化など、小中学生にとって一見難しそうな現象やモノを体験から学ぶ機会にする
防災についての学びが、楽しく、地域にとって役に立つものであることを実感できる場としたい

● 市内の7高校による学習会（複数回実施）

実施内容

- ・ 避難所運営についての学習会
- ・ 防災クイズの制作
- ・ 災害食の炊き出し（文化祭にてPTAと実施）
- ・ 防災士教本をもとに学習内容を精査
→ 防災士資格取得に貢献できる内容に

● 宇和島市防災キャンプ

実施内容

- ・ 防災クイズの実施
- ・ 災害食の調理
- ・ 自分達の学習や研究、活動の披露や報告
- ・ 防災士資格取得学習会への参加

● 世界津波の日高校生サミット、宇和島防災フェス、各種学会など

実施内容

- ・ 自分達の学習や研究、活動の披露や報告を通じた改善策の検討

宇和島防災コンソーシアム(U-BOC)の設立

- 市内の小学校・中学校・高校の防災学習
- 宇和島市防災キャンプの記録
- 防災グッズ・防災食の展示（試食も？）
- 防災士資格取得に関する情報



U-BOC Base（旧宇和島市立図書館）にて展示

- ☆ ここに行けば防災に関する情報が得られる
- ☆ ここに行けば防災に関する学習ができる

防災教育活動withコロナを立案し、実現させていきたい

大規模災害withコロナに対応できる人づくり・まちづくりに寄与したい

当初の活動目的

- 1 被災経験を次世代に継承し、風化させない。
- 2 金栄小学校災害タイムラインの実行と防災行動の検証
- 3 保護者及び地域住民と協働で防災教育の取り組む。
- 4 防災学習で学んだ地域の災害特性を地域住民に対して情報発信する。

☆自分の命を守り、共に助け合い、生き抜くために大切なこと学ぶ。

新型コロナ禍における活動状況

- 1 新型コロナ感染防止に伴い、年度初めから臨時休校となり、授業等に遅れが生じた。防災学習より通常の授業を優先し、授業の遅れを取り戻すこととした。
- 2 2学期からスタートを切り、学校と調整しながら例年どおりの防災学習を進めていく予定

当初の目標と現時点での活動状況とのギャップ

- 1 金栄小学校災害タイムラインの実行と防災活動の検証を予定しているが、コロナ感染防止のため、分散避難が推奨されており、防災活動の検証ができるかが不透明である。
- 2 新型コロナウイルス感染防止のため、様々な活動が制限されており、児童の安全を確認しながらの活動となる。

今後の活動目標

- 1 活動目標として、防災まちあるきで調べた地域の災害リスクから**防災マップ**を作成し、地域住民に対して情報発信を行う。
- 2 新型コロナウイルスの感染から逃れるため、災害弱者が避難を控える可能性があるため、災害弱者に対して、適切な避難行動等を取りまとめた**防災対策新聞**の作成を進める予定です。



呉工業高等専門学校 3Dマップ製作チーム

◆当初の活動目的

- 2次元の地図から3D地形模型マップを手作りし対象地域の地形の特徴を知る
- 製作した地形模型と他の防災教育活動との組み合わせで防災上の問題点を再確認

◆コロナ禍において実践できたこと

- 対面授業3Dマップ製作(6/30市立呉高) 説明不足
- Zoomオンライン防災授業(7/28原小)
- ◎ Zoomオンライン防災授業＋3Dマップ製作(8/26宮原中)
- 少人数対面防災授業＋3Dマップ製作(9/9天応中)

◆予定とのギャップ

△活動制限＋長距離移動制限

分散登校＋オンライン講義のため活動時間が不足
他地域との交流は難しい

- 月1校のペースで3Dマップ製作＋防災授業
6月以降は月1校の防災授業実施

呉工業高等専門学校 3Dマップ製作チーム

◆今後の解決策、代替案

◎オンライン授業でも製作できる方法に挑戦した

◎オンラインでも3Dマップ製作できるマニュアル作成
(Zoom授業＋オンデマンド解説動画)
により、他地域への展開を目指す



防災教育チャレンジプラン2020
中間報告会

“いのち”をつなぐ戦い

～EVACUATIONの一般化が大切な人のいのちを繋ぐ～

名古屋市立工芸高等学校 都市システム科

“ひと”と“まち”づくり 協創ワーキンググループ

名古屋市立
工芸高校の
ご紹介

名古屋駅から南東に3kmほどの位置にあり、名古屋城やナゴヤドームからも近い、まちなかにある学校です。1917年(大正6年)に金工、木工、図案の3科を主体とし、名古屋市立工芸高等学校として創立され、今年で創立103年を迎える伝統ある学校です。
都市システム科では、「まちづくり」に関する学習や研究をすすめており、近年は「防災」をテーマとして、様々な活動に、主体的に取り組んでいます。

応募(当初)時の活動目的

何を伝えるのか

- ◆ **「チーム浸水被害」**は、水害の危険性を容易に体験でき、“いのち”を守ることを意識するための「浸水擬似体験装置」を開発し、地域の方に、“いのち”を守るための行動の大切さを伝えたい。
- ◆ **「チームブラックアウト」**は、これまでのレガシーを活かし、試作品を製作し、試験施工を行いたい。

今後の解決策、代替案

遅れを取り戻す

- ◆ **“いのち”の大切さ**を伝える活動を充実させるため、装置や製品の開発を継続的に取り組むとともに、近隣学校の授業として採用してもらえないかについて調整を行う。
- ◆ **より効果的な取り組み**とするために、大学と連携して、多角的に水害を捉えることができるよう、協力体制の拡充に関する調整を行う。

- ◆ **“いのち”の大切さ**を伝える上でも、地域との連携は欠かせないが、打ち合わせや訓練が相次いで中止となる中、イベントの提案すらも難しい状況となっている。
- ◆ **実質2か月の時間が失われ**、全体的にスケジュールが遅れ、夏休みや土休日にも活動を行わざるを得ない状況となっている。

コロナによって

学校再開後

- ◆ **「チーム浸水被害」**は、授業時間だけでなく夏休み期間も利用して、「浸水擬似体験装置」の設計や製作、さらには、関連団体による講義の受講や、打ち合わせを行った。
- ◆ **「チームブラックアウト」**は、試作品の製作に向けた具体的な設計や材料試験を実施した。

予定とのギャップ

コロナ下において活動できたこと